特集 カブトガニの保護対策は、新たなステージへ

ー 国指定天然記念物『伊万里湾カブトガニ繁殖地』の保護 ー

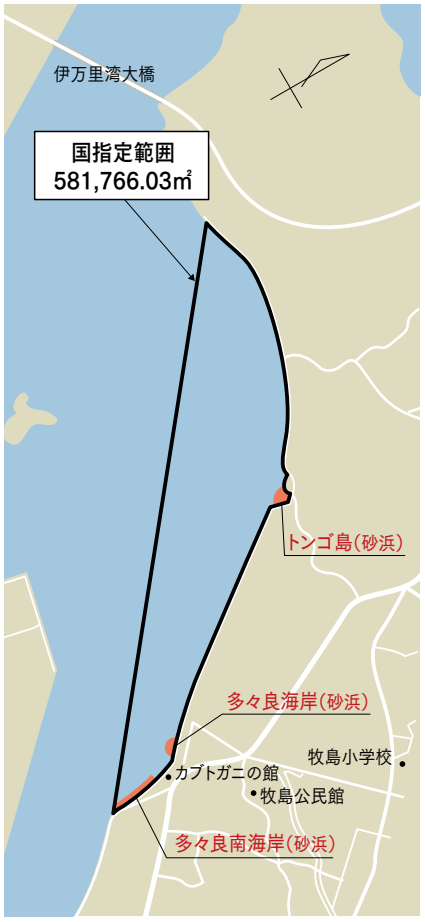
多々良海岸一帯は、山口県下関市の千鳥浜や福岡県北九州市の曽根干潟などと並ぶ、国内有数のカブトガニの繁殖地です。かつて、漁師の底引き網を破る厄介（やっかい）者として扱われたカブトガニが絶えることなく命をつないだ故郷の地は、10月７日、国の天然記念物に指定されました。

戦後の高度経済成長期、湾内の一部の埋め立てなどによって周辺環境は急激に変化し、海岸一帯で産卵するカブトガニの数は、一時 100 つがい（雄が雌の後ろにしがみついた状態）を下回ったものの、その後の環境美化・改善により、近年は 400 ～ 500 つがいで安定的に推移しています。

今回の特集では、天然記念物指定の範囲やその理由、市内のカブトガニ保護団体の活動などを紹介するとともに、今後、指定地である伊万里に住む私たちに求められることが何かを考えます。

国の天然記念物となった伊万里湾の繁殖地

はるか２億年前から姿を変えていないカブトガニ。
伊万里湾の繁殖地は、地理的要因や保護活動、将来性を評価され、
今回、国の文化財として天然記念物に指定されました。
まずは、指定の対象地域や理由などを確認します。



【図】天然記念物の指定範囲

天然記念物とは

『天然記念物』は、文化財保護法に定める記念物の一つで、動物や植物、鉱物が含まれます。記念物には、ほかに『史跡』（古墳や城跡など）、『名勝』（庭園や峡谷など）があり、いずれも歴史・学術上の価値が高いものです。

今回指定された範囲

『伊万里湾カブトガニ繁殖地』には、３つの砂浜と広大な干潟が含まれ、その面積は約58万２０００平方メートル【図】。国内における指定は、岡山県笠岡市の神島（こうのしま）水道に次いで、全国で２例目となります。

指定の主な理由

①種としての価値

カブトガニは、２億年以上の昔からその姿を変えていないため、『生きている化石』と呼ばれています。その起源は、古生代（５億４０００万年～２億５１００万年前）にまでさかのぼりますが、現在は世界にわずか４種となっています。また、環境省のレッドリスト（絶滅危惧（きぐ）種一覧）で第Ⅰ類（絶滅の危機に瀕（ひん）している種）に分類されています。

②繁殖に適した環境と将来性

カブトガニの繁殖には、産卵するための砂浜と、卵からふ化した幼生が生育するための干潟が必要です。伊万里湾の繁殖地は、砂浜と干潟が良好な状態で維持されています。

砂浜は、満潮時には水没します。これは、カブトガニが満ち潮に乗って移動するのに好都合で、潮が引くと、砂浜は太陽熱で効果的に温められ、ふ化が進みます。また、指定範囲の周辺には約８００万平方メートルの潟が広がり、干潮時には広範囲の干潟が出現。幼生が餌を食べたり、外敵から身を隠したりするほか、冬季の休眠場所にもなります。

指定地域の海岸線の総延長は２・５キロメートルほどで、必要に応じて砂浜を造成することも可能なことから、繁殖地としての将来性も兼ね備えていると言えます。

③保護団体と保護活動の確立

市内には、３つのカブトガニ保護団体があり、産卵地の清掃や産卵観察会の開催、展示施設の運営、つがい数の調査や幼生の飼育・放流などの活動を展開しています。

▽伊万里市カブトガニを守る会

企業や有志個人を会員とする市民団体で、昭和53年に結成されて以降、毎年清掃活動を実施しています。

▽牧島のカブトガニとホタルを育てる会

多々良海岸がある牧島地区の住民を会員とする地元住民団体で、平成18年に結成。定期的な清掃活動のほか、多々良海岸に隣接する展示施設『カブトガニの館』を運営しています。

▽伊万里高等学校 理化・生物部

高校の部活動として、昭和38年からカブトガニの産卵つがい数調査や幼生の飼育・放流を実施しています。

↑６月20日、天然記念物の指定答申（19日）を喜び握手する市と保護団体の代表者（左から伊万里高校・瀬戸校長、市カブトガニを守る会・竹内会長、塚部市長、牧島のカブトガニとホタルを育てる会・堀会長）

↓7月12日、カブトガニの産卵シーズン到来を前に、多々良海岸の砂浜を清掃する関係者

カブトガニの営みを支えた人々

ここ数年、産卵するカブトガニの数は安定しています。
そこには、多々良海岸一帯の繁殖地を見守り、
カブトガニの『里帰り』を支えてきた人々がいます。
その保護団体の活動とカブトガニへの思いを紹介します。

カブトガニは地元の『宝』

私たちは、583世帯 1,467人の地元住民を会員とする団体で、産卵期前後の海岸清掃や『産卵を観(みる)る会』への運営協力のほか、『産卵を迎える夕べの会』を主催しています。また、当会運営のカブトガニの館には、市外から年間約4,000人が訪れます。これからも地域『愛』の精神で、保護活動を継続していきたいと思います。

会長　堀　實(みのる)さん

牧島のカブトガニとホタルを育てる会

平成18年設立　地元住民団体

保護活動は私たちの『使命』

当会は、市内５つのボランティア団体と個人を会員とし、長年にわたり協力しながら海岸清掃を続けてきました。私たちが今も活動できるのは、先人の下地や皆さんの支えがあったおかげです。来年は、日本カブトガニを守る会総会を伊万里にて開催する予定ですので、これを契機に、市民で保護する気運を高めていければと思います。

会長　竹内 和教(かずのり)さん

市カブトガニを守る会

市民団体　昭和54年設立

〔構成団体〕伊万里ライオンズクラブ／伊万里ロータリークラブ／伊万里西ロータリークラブ／国際ソロプチミスト伊万里／伊万里青年会議所

行政（自治体）

市教育委員会 生涯学習課文化財係

副課長兼係長　船井(ふない) 向洋(こうよう)

伊万里の保護団体の強みは『連合体』であること。伊万里高校理化・生物部が調査研究分野を、『市カブトガニを守る会』と『牧島のカブトガニとホタルを育てる会』が清掃や行事開催などの保護・啓発分野を担当しています。行政はその調整役。団体の皆さんと一緒に、保護活動の大切さを伝えたいと思います。

保護活動を支援するために

学校部活動　昭和38年調査開始

伊万里高等学校 理化・生物部

顧問　永尾 純一 教諭

本校理化・生物部は、これまでカブトガニを調査・研究してきました。最初期は産卵地の探索から始まり、その後は成体や卵、幼生の研究と多岐にわたります。近年は、幼生の人工飼育や放流、産卵観察会での解説のほか、学校全体で産卵地の清掃も実施しています。今後も、カブトガニの姿が絶えないよう、保護活動に取り組みます。

カブトガニの魅力を伝えたい

↓9月28日、多々良海岸の砂浜で、花が開くように卵からふ化して水面に浮くカブトガニの幼生

伊万里湾の繁殖地に求められるもの

国の天然記念物となった伊万里湾カブトガニ繁殖地。
果たして、私たちは『共生』してきたと言えるでしょうか。
貴重なこの財産を未来へ継承していくために、
私たちにできることは何なのかを考えます。

天然記念物の保存と活用

天然記念物を含む文化財を保護するためには、まずは『保存』が必要不可欠です。しかし、それでは不十分です。そこで『活用』という観点が非常に重要になります。これは、文化財を地域共有の財産として位置づけ、文化財から学び、文化財を生かすという考え方に基づくものです。

①天然記念物の保存

伊万里湾カブトガニ繁殖地が国の天然記念物に指定されたことを受け、市では、今後の保存方針や対策などを盛り込んだ保存管理計画を策定します。

保存にあたっては、これまで実施してきたカブトガニに関する調査や研究について、大学などの研究機関との連携も視野に入れながら、発展的に継続していくことにしています。

↑7月19日、『産卵を観（み）る会』で、生きているカブトガニと触れ合う子どもたち

②天然記念物の活用

天然記念物の保存と並行して、カブトガニと繁殖地を国内外に向けて発信したり、まちづくりに取り入れたりするなど、効果的な活用方法を模索します。それは、カブトガニとの『共生』にもつながるものです。

すべてはカブトガニを知ることから始まる

私たちは、カブトガニの2億年の営みを変えることなく、次の世代に伝えていかなければなりません。しかし、保護団体や学校、行政だけで守ることには限界があります。

天然記念物に指定された伊万里湾の繁殖地は、国内でも特別な区域であり、地域共有の財産です。まず私たちにできることは、一人一人がカブトガニを知り、カブトガニを取り巻く環境の保全に関心を持つことです。そのことが、ひいてはカブトガニとその生態系を守り育てる大きな力になります。

カブトガニ繁殖地は後世に残すべき伊万里の『誇り』です

今回の天然記念物への指定は、私たちにとって誇るべきことです。現在の伊万里湾は、開発区域と環境保全区域の住み分けがなされ、『海の森林』と呼ばれるアマモが戻ってくるほど水質も向上しました。それは、これまで伊万里湾にかかわった人たちの理解と協力があったからこそ実現しているのであり、私たちは感謝しなければなりません。しかし同時に、私たちにはカブトガニとその『ゆりかご』である繁殖地を、地域のシンボルとして継承していく責務があります。ただ守るのではなく、一人一人が伊万里の環境や風土のすばらしさ、カブトガニの存在とその価値を子どもたちに伝え、そして国内外の人たちに発信していくことが求められています。

酒見（さけみ） 良司（りょうじ） さん
▶日本カブトガニを守る会 委員
▶伊万里市カブトガニを守る会 顧問
▶元 伊万里高校理化・生物部 顧問